

平成21年度漁業士認定事業

水産業改良普及センター 牧野清人

1. 漁業士認定及び審査状況

漁業士制度は、地域漁業振興の中核的漁業者を育成する目的で、昭和61年度から全国一斉にスタートしています。現在、沖縄県における漁業士は44名で、そのうち、名誉指導漁業士4名、指導漁業士30名、青年漁業士10名であります。平成21年度は漁業士認定審査会が平成21年12月24日に開催され、指導漁業士3名、青年漁業士1名が認定されましたので紹介致します。

2. 平成21年度認定漁業士紹介

安谷屋秀喜 指導漁業士（糸満漁協）

平成2年に漁業経営を開始し、パヤオ漁業ならびにソデイカ漁を営んでいる。平成12年度に経営能力、地域貢献が認められ青年漁業士に認定されて以来、沖縄県漁業士会の副会長ならびに幹事を務める等、漁業士会活動に積極的に尽力している。与根支部青年副部長やソデイカ生産部会委員として重要な役割を担っている他、漁協組合員資格審査委員長を務め、水産高校生のインターンシップ事業支援を行うなど、漁協や地域社会からの信頼も厚い。

仲与志 勇 指導漁業士（久米島漁協）

モズク養殖業ならびにパヤオ漁業を営む。平成14年度に青年漁業士に認定されて以来、沖縄県漁業士会の中南部支部の支部長を務める等活動に積極的に参加し後継者育成に尽力している。これまで漁協青壮年部長やモズク養殖部会長を歴任し、漁協組合員資格審査委員を務めている。漁協青壮年部のリーダー的存在として活躍しており、漁協や地域社会からの信頼も厚い。

仲本博一 指導漁業士（宮古島市漁協）

モズク養殖ならびにヒトエグサ養殖を営む。昭和55年に漁協が特定区画漁業権を取得後本格

的にモズク養殖を開始、モズク種の越夏保存法を宮古支庁水産業改良普及員の指導で確立した。昭和57年には平良市漁業協同組合西原漁業生産グループを結成し副会長に就任し地域グループの中核的漁業者としてモズク養殖の振興に尽力した。昭和60年から理事5期、監事を5期20年努め現在宮古島漁協ヒトエグサ養殖部会の会長として地域漁業者からの信望は厚いものがあり中核的漁業者として活躍している。

屋比久健 青年漁業士（金武漁協）

平成9年3月に球陽高等学校を卒業後、東京都の読売新聞社に勤務したあと早稲田大学に入学、4年間に在学中退学し、金武町に戻り先輩の漁業者の手伝いをしながらモズク養殖の技術を習得した後独立し、モズク養殖業を本格的に開始し、2年半経過した。

組合のモズク生産部会役員として品質の良いモズクをつくるために種の培養や苗床についての研究に励み、漁協施設を借りて独自で塩蔵加工も行っている。また、農商工連携についてのマーケティング講習等を受けて勉強し、販路拡大に向けて意欲的に取り組んでいる。漁協理事、青壮年部の会計も担当しており組合の信頼も厚い。



漁業士に認定された4名（右端は安谷屋指導漁業士の代理）